

自分につながる話として 歴史を学ぼう!

2018.5.18 刊
正論SP Vol.3
産経教育委員会
100の提言

元小学校教諭 ●
齋藤 武夫



友人の小学校教師Sさんが三月に卒業した六年生の子供達の感想文を送ってくれました。子供達が義務教育で初めて学んだ歴史の感想文です。

◆日本の歴史人物・リーダー達は、多くの迷いや苦悩があっても、国の運命のために決断をして、日本を守ってきた。その人たちにばかりはとも感謝している。

これからは自分の番だということ意識して、国づくりのバトンを受けつぎ、誇りある日本人として生きていきたい。

◆この学習を通してわかったことが三つあります。

一つ目は、聖徳太子が驚くほどの計画を立て「独立国」にしてくれたことです。

二つ目は、二度目のピンチの元

が攻め込んできたことです。このときも北条時宗さんが自分の国を守るために作戦を練って勝ってくれたことです。これにはあらゆる決断があったことでしょうか、すばらしいと思いました。

三つ目は、伊藤博文さんが日露戦争の時「いざという時は自分も兵隊になって戦う」と言ったことです。これは国民にとって大きなはげみになったと思うので、すごいと思いました。

◆私はこれから自分の意見をしっかり持ちたいと思った。今まで自分のことは自分で決めてきたつもりだったけど、「先に選んで」とか「なんでもいいよ」とかよく言ってしまうていた。だから選挙できる歳になったら絶対に投票所に行き、投票する。そして総理にな

つた人を強く責めることはしない。一緒に考えたい。

学級の児童のほとんどが歴史を「他人事」ではなく「わが事」として受け止め、今を生きる「自分の番」をしっかり考えようとしています。私が考えやってきたことが、S先生の教室で、現役のときの私以上の成果を上げているのがわかります。

教育の現実には法律や言論の中にはなく、教室で毎日行われている授業の中にあります。

そう考えて三十年近く代案となる歴史授業をつくり提案してきました。いまようやく共鳴してくださる先生方が各地で授業の追試(拙著『授業づくりJapanの日本が好きになる!歴史全授業』をそのまま、または修正してやってみることをしてくれています。

今回、正論SP「産経教育委員会100の提言」に執筆の機会を

いただきました。歴史教育をどうすればよくなるか、多くの国民の関心が高まるよう願っています。

産経新聞の教育報道、教科書報道が教育の正常化に向けて果たしてきた役割は大きいと思っています。私は学校教育に教師として関わってきました。現在の義務教育への批判は大切ですが、批判だけでは現実は変わりません。それよりも、代案と、代案に基づく健全な教育の事実を示していくことが大切だと考えており、そこで今回も、私は自分のつくってきた授業について書くかと思いました。

歴史がわが事になる授業

歴史の授業をつくっていくうち

に重要なことに気づきました。面白い授業をつくり日本の素晴らしさを教えても、それが他人事の知識で終わる限り「文科省学習指導要領」「歴史教育の目標」である「国を愛する心情」「日本国民としての自覚」の育成は不十分だということでした。

教材探しに時間がかかりました。「命のバトンと国づくりのバトン」と題する歴史入門の授業が生まれました。

この授業は子供達が初めて歴史の授業をするさいに行う授業です。歴史というものを自分とはかけ離れた出来事と捉えるのではなく、自分とつながっているのだ、と実感できる授業です。教材は「先祖の数」で、今回、正論誌上でも授業の内容を示します。

授業のあらましは次のような流

「日本の歴史と自分がつながっている」=「わが事」としての歴史が実感できる授業の流れ

では曾祖父の上のご先祖は？ 16人ですね
 その上のご先祖は何人ですか？ 32人
 またその上は何人ですか？ 64人

ではあなたのご先祖さまは全部で何人いるのでしょうか？
 一世代を25年と考えて計算してみました

「先祖様は2倍ずつ増えていきます！」

では曾祖父は全部で何人ですか？
 全部で8人ですね

ではお祖父さん、お祖母さんは何人ですか？
 全部で4人ですね

あなたの親は何人いますか？
 お父さんとお母さんの2人ですね

計算ではこうなります！

明治時代の始まりのころ	64人
江戸時代の始まりのころ	6,5536人
戦国時代の始まりのころ	209,7152人
室町時代の始まりのころ	1,3421,7728人
鎌倉時代の始まりのころ	21,4748,3648人

億 万

重要！1人でも欠けたら私はこの世に存在していません！

私達のご先祖は数え切れないほどたくさんいたのです。

これを「命のバトン」と呼びます。これから歴史の勉強をするときはこのイメージを持ちましょう

先祖がいたから
 ↓
 ▼私がいる
 ▼日本という国がある
 ▼日本人としての私がいる

歴史はご先祖様がつくった日本という国の「国づくり」の歩みです

膨大な数の「命のバトン」を受け継いであなたは今、ここに生きているのです！

授業では計算上の先祖の数が当時の人口を大幅に上回っていることにもふれ児童生徒に考えさせています。実際の授業では系図を実際に示して、系図の見方を教えながら、子供達も系図にふれます子供達は歴史という営みの連続性、それと自分がつながっているのだと実感してくれます。

第一部「命のバトン」

- ・歴史学習に必須な系図の読み方
- ・自分の系図を祖父母まで書いてみる
- ・一世代二十五年として先祖の数を計算してみると鎌倉開幕のころには二十億人を超えてしまう
- ・過去のどの時代にも自分の先祖が生きていて、先祖が受けついでくれた命をいま自分が預かっている

第二部「国づくりのバトン」

- ・これを「命のバトン」とよぼう
- ・受けつがれた命は「世界市民」の命ではなく「日本人」の命である
- ・日本は二千年前まで（あるいは一万年前まで）先祖が日本列島のどこかで生きていたと想像することがリアルな唯一の文明国（列島誕生以来、民族大移動がなく大量

移民もなく滅ぼされたこともない）

- ・先祖は日本という国をつくり、外敵がら守り、発展させてきた
- ・どの時代にも自分の先祖が日本列島のどこかで生きていて、歴史人物たちと運命を共にしていた
- ・これを「国づくりのバトン」とよぼう
- ・それが歴史である

第三部「親戚の国日本」

- ・計算では、先祖は過去にさかのぼるほど限りなく増えていくが、考古学などに基づく実際の人口は真逆だ
- ・縄文時代の数万人から少しずつ増えてきて明治時代以後一気に増え、一億人を超えたのはつい三十年前
- ・この矛盾を解くには？
- ・先祖のほとんどが重なっていた

と考えるしかない

- ・私たちが国民のほとんどは遠い親戚
- ・明日から、世界で唯一国民が親戚の国、日本の歴史を学ぶ。それはみなさんの命（先祖）が歩いてきた足跡です。
- ・子供達はこのような感想を書きます。

- ◆ 今まで先祖のことなど考えたこともありませんでした。先祖のうち誰か一人でもないかと私はいないので、私の命は奇跡だと思いました。
- ◆ 自分の子孫に感謝されるような先祖になりたい。
- ◆ 多くの先祖はもしかして歴史の事件とかにかかわったのかなとワクワクしてきた。これからご先祖

国民を育てる歴史教育

戦後七十年、わが国は国民を育成する歴史教育（国史）を忘れてきました。平成十年に文科省が前掲の目標を掲げても事態は変わりませんでした。大騒ぎになった教育基本法改正でも変わりませんでした。そして今も、自我形成期に

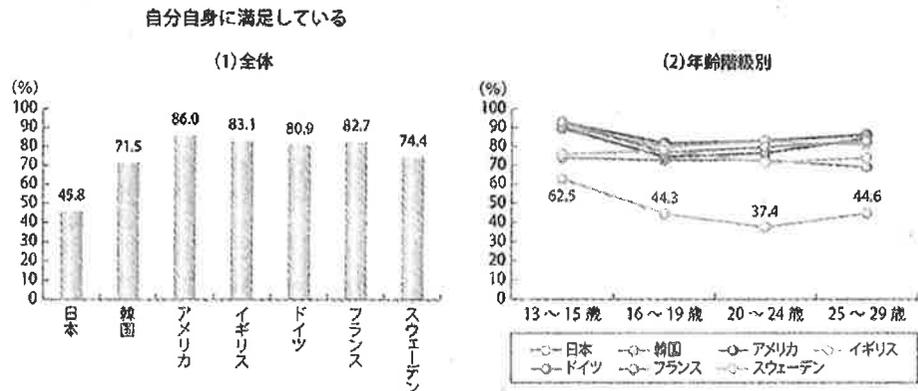
この授業は子供達の心に残ります。最後に歴史学習全体の感想文を書かせると、多くの児童がこの授業に触れます。毎時間この時代にも自分の先祖がいたことをイメージさせながら学習を進めます。すると、冒頭に示した学習感想文のような心が育っていきます。

① 日本は素晴らしい国だ と感じる児童

させ、自我形成に大きな害があります。先祖は、様々な身分や職能グループに分かれ、それぞれの責任を分担し合って国を支えてきたというとらえ方をします。この国家観が日本の史実にもふさわしいかです。

② 先人の歩みへの共感を育てる

日本の素晴らしさをしっかりと教えます。わが国には世界一や世界初がたくさんあり、子供達は大いに感動します。また、鎖国のキリスト教弾圧、韓国併合、昭和の戦争などはすべて日本が悪かったかのように教えられています。それは間違いです。史実に沿って先人の血と汗、苦悩や歓喜迷いや決断に共感できる授業にします。現在から過去を裁く授業では、子供の自己肯定感を削られ押しつぶされてしまいます。これは、義務教育



(注) [次のことがあなた自身にどのくらいあてはまりますか]との問いに対し、「私は、自分自身に満足している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合。

段階（自我形成期）の歴史教育の最も重要な観点です。

③ リーダーの立場で考える

これは自由と民主主義の国を支える国民育成の教育法です。「仏教か日本の神様か」「開国か攘夷か」「廃藩置県、賛成か反対か」など政策選択問題を毎時間用意します。大久保利通の立場で、親友西郷を倒すか、親友とは戦わないかを選んだりもします。子供達はこれをとて切実な問題として議論します。リーダーとして国を担う大変さもわかってきます。国民として何か国の役に立ちたいという思いも具体的にになり、選挙権の行使など主権者意識も育っていきます。

五 歴史は物語

歴史は物語です。だから心に響きます。ワクワクドキドキしながら

自国の歴史を暗記科目として学び、そして忘れ、ある場合には日本は悪い国、先祖は悪い人と教える歴史教育があります。

内閣府による自己肯定感の国際比較では毎回日本が最低です。先進国諸国の半分、韓国の三分の二という異常な低さです。

子供達の自己肯定感の異様な低さは、教師の歴史観や国家観、間違った歴史教育が原因です。歴史教育が日本国民としてのアイデンティティーを確立させていないからです。

反対に、正しい歴史教育によって先人に感謝し祖国を誇りに思うようになると、自己肯定感が高くなります。歴史教育が「自分はあがままで価値がある」「自分が生まれてきたことには意味がある」という思いを育てるからで

ら次の時間を待てるように、人物中心の物語になるように授業を組み立てます。また私は通史も次の「五章の物語」で授業を構成していきます。日本の歴史を簡潔にとらえるストーリーです。

- ① 日本民族の形成期(縄文〜弥生)
- ② 古代日本の国づくり(弥生〜奈良)
- ③ 日本文化の形成期(平安〜江戸)
- ④ 近代日本の国づくり(幕末〜明治)
- ⑤ 世界の中の日本(明治末〜平成)

以上、日本の子供達に「国を愛する心情」と「国民としての自覚」を育てる歴史授業のあらましです。いま、この授業を全国の若い先生方に伝える活動を進めています。各地での「歴史授業講座」の開催などです。教室の歴史授業が変わることで、日本の子供たちに健全な愛国心、日本人としての誇りが育つことを願ってやみません。

す。「荒れた学級がよみがえった!」「問題児だった子が感謝の心で学ぶようになった」という報告も届きます。最後に私が授業づくりで気をつけているポイントについて五点述べておきます。「命のバトンと国づくりのバトン」の授業だけやって、以下の五つが押さえられないと、逆に自虐史観をわが事として学ぶことになってしまふからです。

- 一 歴史は「他人事」でない「わが事」
- 二 国家は国民の「共同体」ととらえる

「国づくりのバトン」の授業と毎時間の意識づけです。

教科書は「国家は支配階級が民衆を支配するための道具だ」という国家観で書かれています。この国家観は子供達の同胞意識を分裂